

住吉大社のある暮らし

sumiyosan vol.10

住吉っさん



ご挨拶

此度は、高井道弘前宮司の勇退に伴い、四月一日付にて、神社本庁より住吉大社宮司を拝命いたしました。

私どもが一身を捧げて奉仕する住吉大神は、神話のなかで伊弉諾尊が禊祓をおこなわれた際、海の底・中・表から出現せられた三神を合せてお祀り申し上げています。海の底は、龍宮城に例えられるように、真珠や珊瑚などの宝物や海底資源があります。海の中ほどは漁獲などの海の幸が得られます。海の表では、船路によって人々の往来があり、様々な文化や舶来品がもたらされました。心身を浄化し、幸を恵まれる、そのありがたいご神徳を輝かせられるご存在が、我々が奉斎いたします住吉大神であります。

当社には、大切に守られてきた文化財が数多くあります。神社建築では最古の様式を伝える本殿四棟が国宝に指定されるほか、重要文化財、国の登録文化財に指定された多数の建造物や宝物を有しています。境内には国と市の史跡を含み、大都会である大阪では貴重な鎮守の森、名勝の反橋（太鼓橋）があり、これらは大阪府みどり百選にも選定



神武磐彦（こうたけ・いわひこ）

昭和19年3月12日生。福岡県粕屋郡宇美町出身。昭和42年皇學館大學文学部国史学科卒業、住吉大社奉職。昭和58年禰宜、平成13年正禰宜、平成15年権宮司、平成16年奉賛会事務局長を経て、令和5年4月宮司就任。

されていますが、松のある森厳な社叢は今も昔も変わりません。

また、千八百年を超える悠久の歴史を振り返ってみますと、神功皇后による御鎮座、住吉津の開港、朝廷の祭祀、遣唐使の発遣、歌人の尊崇、文学作品の舞台、北前船や菱垣廻船の航海守護など、皇室を始め庶民の住吉信仰に至るまで特筆すべき事柄が数多くあります。

そして、年間におこなわれる大小の祭典は約百四十件もあるなかで、祈年祭・新嘗祭の大祭をはじめ、踏歌神事、白馬神事、御結鎮神事、松苗神事、卯之葉神事、御田植神事、住吉祭、宝之市神事などじつに多彩な神事がありますが、ご崇敬の皆様がご参列や拝観を楽しみにされるものも少なくありません。

これら有形無形の伝統文化は住吉大社の信仰の根源であります。これらを厳修、継承することは住吉大社発展の力であると確信しています。私どもは、住吉信仰を次世代に伝承するための責務を果たすよう、神明奉仕に努めてまいる所存です。

どうかご崇敬の皆様方には格別のご支援ご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

住吉大社

宮司

神武磐彦

こうたけ いわひこ

退任のご挨拶

この度、三月三十一日をもって住吉大社宮司を退任することと相成りました。平成二十五年より宮司として十年間を奉仕できたことは、大神のご加護はもとより、皆様方の格別のご芳情によるものと衷心より深く感謝申し上げます。当社は後任の神武磐彦宮司のもとで祭祀を厳修いたし、より一層の神明奉仕に精励いたしますので、引き続きご高配を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

住吉大社名誉宮司 高井道弘



住吉祭における堺宿院の祓神事 堺市指定無形民俗文化財に指定

住吉祭・神輿渡御を構成する一連の神事のうち、宿院頓宮しゆくゐんとんぐうにおいておこなわれる神事は、祭礼の本質ともいえるべき「祓」はらえを司るもので、堺の人々の信仰や生活文化の基底を成す祭礼・風俗慣習としても大変に貴重な存在であると評価され、令和4年12月16日付で堺市指定無形民俗文化財に指定されました。

当社所蔵『住吉大社神代記』には、「六月御解除、開口水門姫神社〔和泉監に在り〕」という記事があります。現在の開口神社あぐち（堺市堺区甲斐町）に比定される付近を祭場として6月の御解除おほらい（祓神事）を執行していたとのことです。同記の成立年代には諸説ありますが、少なくとも8世紀後半には現在の堺市域の海浜で祓をすることが恒例となっていたようです。

鎌倉時代の神事を記録した『住吉太神宮諸神事之次第記録』には、旧暦の





6月晦日^{みそか}に「荒和御祓」^{あらじこ}（住吉祭）についての詳細な記事があります。それによれば、本殿で祭典と菅祓^{すげのはらえ}（※）をおこなった後、神輿・神馬などの一行が、住吉大社西方の浜辺から堺へ南下して、宿院に至って祭典や菅祓をおこなうものでした。現在においても、7月31日に住吉大社でおこなう夏越祓^{なごしのはらえ}神事・例大祭、8月1日の神輿渡御とともに、本指定となった宿院頓宮祭・飯匙堀^{いいかいほり}の祓神事などを厳粛におこなっています。

※菅祓：大祓詞でも登場する「天つ菅^{すが}」と同じく菅を用いた祓^{はら}。住吉大社では全国神社でも希な菅が用いられ、祓具「菅貫^{すがの貫}」は一社故実の秘儀として継承されている。

様式第 1126 号

住吉大社宮司 高井 謙弘 様

下記文化財を、堺市文化財保護条例（平成30年条例第5号）第29条第1項の規定により、堺市指定無形民俗文化財に指定しましたので通知いたします。

種別	名称
無形民俗文化財	住吉大社宿院頓宮の祓神事（荒和天祓神事）

令和4年12月18日

堺市長 永藤 英樹

堺市指定無形民俗文化財 指定通知書

モンゴルと日本をむすぶ馬頭琴

―国交五十周年記念行事と住吉大社―

モンゴル国文化大使

佐藤 紀子



令和4年2月24日。私は東京渋谷のモンゴル国大使館内にいました。コロナの最中でしたから大勢の方々に来ていただくわけにはゆきませんでした。その日はモンゴル国と日本の「外交関係樹立50周年の記念日」だったので、ささやかながら祝賀の宴でした。ウランバートルから届いた料理や様々な馳走が並び、日本在住のモンゴル音楽の演奏家たちも集まり、また大統領や、両国首相からのビデオレターも紹介されました。在モンゴル日本国大使館に勤務し、両国の外交にご尽力された歴代の大使も駆けつけて、ウランバートルからお祝いのために来日された関係者の方々もおられて参加者たちは旧交を温めました。そこに飛び込んできたのが、ロシアがウクライナに侵攻したというニュースでした。

言葉を失うとはこのことでした。

海に（ひとまずは）守られている日本と違って大陸は地続きです。本物の信頼と友好関係がなかったらいつなんどき国境を超えて戦車が来ないとは限らない危うさがあります。国際機関の決まり事も制御機能を果たさない状態で、すでにあの日から1年以上が過ぎました。

一日の猶予もなく戦争状態の終結を心から願っています。

世界情勢はさておいて昨年は、日本とモンゴル国は外交関係樹立50周年の節目の年を祝いたいと、モンゴル政府は「モンゴル国立馬頭琴交響楽団」による祝賀演奏会を日本のNHKホールで開催することを決めました。3600人も入る大きなホールです。毎年、年末の紅白歌合戦はここで開催されています。



たまたまのことですが、佐藤はこの楽団とはご縁が深く今までにもフルメンバーでの来日演奏会をハンドリングしてきた関係で今回もお世話をするようになりました。まずNHKホールを抑えるところから始めなければなりません。その準備段階からのことを書けばきりがありませんので割愛しますが、令和4年（2022）11月30日にNHKホールで祝賀演奏会を開催。モンゴル国の主催。そこへ天皇皇后両陛下をお迎えすることなどが粛々と準備が進められて当日を迎えました。モンゴル国公式行事ですから両陛下をお迎えするのはモンゴル国大統領という形になります。私は両陛下のご先導・ご説明の担当となりました。

陛下はまだ皇太子さま時代にモンゴルを訪問されてその折に楽団との合同演奏会をされた経験もありで、その後の楽団来日演奏会にもお運びくださった経緯がありました。その際も私は陛下のお傍でご説明役を仰せつかっておりました。ピアノ演奏をされる陛下と楽団は馬頭琴という民族楽器を通して、同じ弦楽器同士何か見えない糸で気持ちが通い合っているように見えました。

NHKホールでの演奏会は素晴らしかった、と思います。モンゴル国立馬頭琴交響楽団はモンゴルが民主化してからやっとできた楽団で、設立30周年を迎えるという年でした。楽団にとっても大きな節目を迎えるの嬉しい祝賀演奏会でした。両国の11歳の男児二人はピアノとトランペットで「星に願いを」も幕間に演奏。両陛下も大統領夫妻も楽しそうに過ごされて平和な時間が流れました。50年先の、両国の100周年記念にはこの子たちは61歳。又二人がお祝いの演奏をすることがあればいいなと思います。平和だったらできるでしょう。

楽団はこの後、日本中を12か所演奏して12月21日に帰国してゆきました。その中で特筆するべきことは12月5日に「すみよっさん」で奉納演奏をさせていただいたことです。「外交の祖神」としても意義深い住吉大社の演奏会は楽団にとっても大変ありがたく嬉しい、来日の目的にも叶う演奏会となりました。50人近い楽団員の受け入れは大変なことですが、快く受け入れて下さった前宮司の高井道弘名誉宮司様はじめ住吉大社の皆様にはただただ感謝しかありません。会場を埋め尽くす観客からの熱気を直に受け止めながら演奏出来た楽団員たちも幸せをかみしめての演奏でした。ありがとうございました。

住吉大社での

特別伝道大会を開催して

高野山真言宗河内宗務支所 支所長

野口 真龍



令和4年11月10日、高野山真言宗第五地域伝道団特別伝道大会が、絶好の秋晴れとなり、住吉の大神様、お大師様もお慶びの中、盛大に開催出来ましたこと、厚く御礼を申し上げます。

特別伝道大会は、弘法大師様の教えを多くの方々に触れていただこうと、全国各支所が輪番し開催致しております。コロナ禍で2年間中止を余儀なくされており、河内支所担当の令和4年度開催も先の見えない状況の中、住吉大社様には絶大なる御配慮を賜り、高井道弘名誉宮司様をはじめ、逸見忠志禰宜様、太田光俊権禰宜様には準備段階より相談窓口となつていただき、試行錯誤を重ねて進めてまいりました。偏にお大師様への深いご理解とご寛容の心の賜物と深謝致しております。

きっかけは以前より古布智寛権禰宜様と親交があり、令和2年4月、堺市の住吉大社宿院頓宮におきまして、神仏合同によるコロナ疫病退散祈願祭を挙行致したことが経緯の始まりでございます。

弘法大師空海上人は留学僧として唐へ向う乗船の砌、住吉大社に参拝され、航海の安全を祈願さ



れたと伝えられております。また、御社神宮寺多宝塔は神仏分離以降、四国88ヶ所霊場10番切幡寺に移築され、現存しております。このようにお大師様と御縁のある所での開催の慶びは一生の思い出となりました。

大会当日は、13時より第一本宮にて330人の檀信徒崇敬の皆様御参集の中、高井道弘前宮司様、高野山真言宗 葛西光義前管長猊下に御臨席賜り、150年ぶりとなる神仏合同法要を勤めさせて頂きました。神仏分離以来となる神職と僧侶が一同できました様は、高井前宮司様より「住吉大社に伝わる絵図さながらです。」とおっしゃって頂き、私を含め参加者全員感動を致しました。

14時30分より場所を吉祥殿に移し、ゲストのサキタハジメ様による音楽、桂吉弥様の落語と大会に花を添えて頂き、そのゲスト・神職・僧侶のトークショーにて会を閉幕致しました。



今、私たちを取り巻く環境を思うとき、古来より日本国民の安心と国家の安泰を祈ってきた神仏が、150年ぶりに手を取り合い一同に祈りを捧げられた事は、現代人に斬新に映つり、日本に伝わる宗教を再認識し、今後も神仏の交流が益々深まります事を願う次第でございます。

ありがとうございます。

合掌

住吉三葉松 植樹式

—弘法大師ご生誕一二五〇年記念—



今年、住吉大社の正面鳥居の北東域に、新名所「住吉三葉松」が植樹されました。

それにともない、令和5年4月3日、松苗神事にあわせて植樹式を執り行われました。第一本宮で宮司奉仕により松苗神事ともに住吉三葉松植樹の奉告の祝詞を奏上、祭典後に正面参道へ移動して、高野山真言宗管長長谷部真道殿下、ご後援たまわりました南海電気鉄道株式会社の山中諄様をはじめ、玉垣をご奉納いただいた皆様方のご参列のもと、修祓、除幕式、記念撮影を行いました。



そもそも、住吉大社の第一本宮の南側には、ご神木「三葉の松」が生えて、参拝者に親しまれてきましたが、平成30年9月の台風21号で倒壊してしまいました。その名残を惜しむ声もあるなか、素晴らしいご縁をいただくことが出来ました。昨年11月、当社におきまして高野山真言宗と当社とで神仏合同特別伝導大会を行ない、高野山真言宗河内支所長の野口真龍様とのご縁をいただき、高野山真言宗管長の葛西光義様下（当時）と当社宮司高井道弘（当時）の会見のご機会に恵まれました。これを契機に、本年が弘法大師ご生誕一二五〇年の佳節にあたることを奉祝して、高野山より貴重な三葉松をご奉納いただくことになりました。

ご奉納いただいた三葉松は、高野山の「三鈷の松」と同種の松です。大同元年（806）、弘法大師が唐から帰国する際、日本で密教を広めるのにふさわしい聖地を求めて、唐の明州の港から仏具である「三鈷杵」を投げました。帰国後にそれを探し求めると、高野山の松の木にかかっていたと伝えられ、それ以降この松は「三鈷の松」と呼ばれています。一説には、住吉明神がその松を植えてお迎えしたともいいます。

遠く思いを馳せれば、弘法大師様も遣唐使の一員として航海安全を当社に祈ったと伝えられています。この住吉三葉松が、遣唐使や弘法大師の顕彰の場として、また神仏合同の平和の祈りの象徴として後世に伝えられてゆくことを願ってやみません。

禰宜 逸見 忠志

住吉さんと太閤さん 第六回

——住吉社奉納連歌巻をめぐって——

就実大学講師 竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみました。

第六回を始めるにあたり、まず謝罪させていただきます。前回末尾の予告で私は、「次回は新資料を紹介する予定です。秀吉が住吉

大社に奉納した連歌について、考えてみたいと思います」と書きました。ところが実際に調べてみたところ、紹介予定だった資料が、実は「秀吉が住吉大社に奉納した連歌」ではなかったことが明らかになりました。よく確認しないまま、安易に予告してしまったことを心からお詫びいたします。

しかし、いったい私はどうして間違えてしまったのでしょうか。今回はその反省を

兼ねつつ、新資料「住吉社奉納連歌巻」について述べることにいたします。

岩波書店から出た『国書総目録』という本があります。慶応三年（一八六七）までに日本で著述・編纂・翻訳された書籍の所蔵先をまとめたもので、古典籍の所在を知るためにはもつとも有用なものです。従来「日本古典籍総合目録データベース」として、国文学研究資料館の管理のもとデータベース化・公開されてきており、今年の四月には「国書データベース」としてリニューアル

ルされました。所蔵先だけでなく、一部の
伝本には全冊分のデジタル画像を付した点
でも画期的であり、研究者からたいへん重
宝されています。

その『国書総目録』に、『天正二十年八月
十五日御・輝元等百韻』という名の連歌巻
が立項されているのを見つけたのがそもそ
もの始まりでした。『国書総目録』は、この
連歌巻について、著者を以下のように示し
ています（傍線を私に付しました。以下同）。

⑧御（豊臣秀吉・毛利輝元・午年等

つまり、『国書総目録』は、「御」の一字



↑『国書総目録』書影（就実大学図書館蔵）

を「豊臣秀吉」と解していることになります。
所蔵先として前号で紹介した大阪天満宮が
示されており、私はさっそく同宮所蔵の連
歌巻を確認しました。叢書の一部に収録さ
れた江戸後期の写本とみられるもので、「天
正二十年八月十五日／住吉奉納連歌」と題
され、その巻頭には以下のように記されて
います（三首のみ記します）。

御

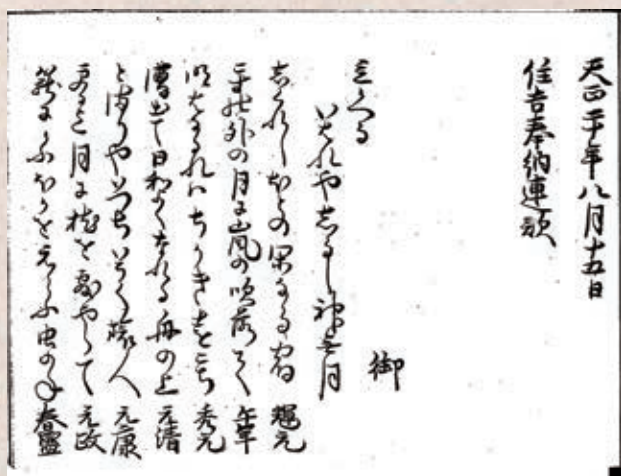
立かへる

いはれやしるし神無月

しくれしほと閑なる宿

輝元

哥の外の月に嵐の吹き落ちて 午年



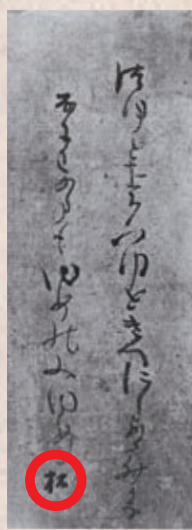
↑大阪天満宮所蔵「住吉奉納連歌」巻頭部

まず、この連歌の基礎的な点について確認しておきましょう。前頁に上げた句は、五・七・五（「立かへるいはれやしるし神無月」、七・七（「しくれしほと閑なる宿」、五・七・五（「哥の外の月に風の吹き落ちて」と、三句の詠みつなぎによって成立していることがわかります。この連歌は「天正二十年八月十五日御・輝元等百韻」なので、このあと九十七句が実際には続いたことになります。この一連の歌を百韻といい、連歌の一式とみなします。また、最初の五・七・五を「発句」、七・七を「脇句」と呼びます。

これを踏まえて写本にある文字の位置を正確に確認しておく、発句を詠んでいる「御」は、脇句を詠んだ「輝元」より上の位置に配置されています。たしかに「御」を人として捉えるならば、『国書総目録』の述べる通り秀吉ほど高位の人間こそふさわしい、と考えるべきなのかもしれません。念のために歴史的背景を確認しますと、天正二十年（二五九二）、秀吉は壬辰戦争（文禄・慶長の役）を計画し、七月末に肥前名護屋（佐賀県唐津市）を視察しています。八月上旬、秀吉の生母大政所が死去します。秀吉は大坂に戻り、高野山金剛峯寺に大政所の追善に関する書状を送り、八月十四日、細川藤孝（幽斎）に朱印状を発行、藤孝から送られた書状をこの日大坂で読んだことを明らかにしています。

す（名古屋市博物館編『豊臣秀吉文書集』参照。ですから、たしかにこの時期に秀吉が住吉大社に連歌を奉納するというのは十分に考えられることではあります。

ところが、この連歌巻を見ていくと、いくつかの奇妙な疑問点に気が付きます。まず、秀吉ほどの大物がいるにも拘わらず、その他の詠者は全員が毛利輝元およびその一族、あるいは連歌師と目される人物しかいません。しかも、それら連歌師にしても、里村紹巴や幽斎など、秀吉に近侍していた詠者が含まれていないのです。その他の詠者は、輝元をはじめ、概ね十句前後の句を詠進しています。しかも秀吉が歌を詠むときに使った一字名（いわばペンネーム）は「松」であり、「御」ではありません。有名な秀吉の辞世「露と落ち 露と消えにし我が身かな 浪速のことは 夢のまた夢」の自筆句にも、「松」の署名が確認できますし、文禄三年（二五九四）三月四日に秀吉が高野山で興行し



→ 秀吉自筆の辞世歌（桑田忠親「太閤記の研究」（徳間書店、一九六五年）に掲載されたものを転載。「松」の字が確認できる（囲み部分）。

た連歌においても、秀吉は「松」の署名で発句を詠んでいます。

また、秀吉は関白に就任してから積極的
に連歌会を催しており、その際には一座の
中で割合多くの句を詠むことが指摘されて
います（鶴崎裕雄「戦国武将の千句連歌」）。しかし
ことこの連歌に関していえば、秀吉と目さ
れる「御」の句は、なぜか発句しか存在し
ません。その上、「御」以外に一句しか詠進
していないのは、「午年」（未詳。この年の前後、
毛利家が催す連歌会に度々出席しており、毛利家に近侍
した連歌師かと推察されます）と署名する人物し
かないのです。さらに、秀吉が詠んだ句
を「御」と示す例については、管見の限り
確認することもできていません。本当にこ
れは秀吉が住吉に奉納した連歌といえるの
でしょうか。

そうした疑問を抱きながら紐解いたのが、
日本全国に伝存する元禄十年（二六九七）以前
の連歌を集め、目録化した『連歌総目録』
でした。天正二十年（二五九二）八月十五日の
項を確認すると、以下のように立項されて
います。

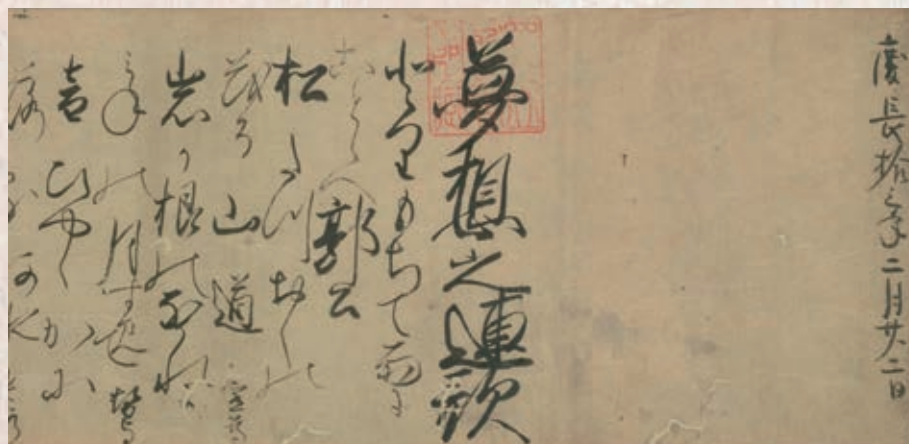
〔成立〕 天正20年8月15日〔種別〕百韻
〔賦物〕夢想〔発句〕立かへるいはれや

しるし神無月〔発句作者〕無記…夢想〔脇
句作者〕輝元／朝臣〔作者句数〕無記
Ⅱ1、輝元／朝臣Ⅱ11、午歳Ⅱ1、秀
元Ⅱ9、元清Ⅱ10、元康Ⅱ2、元政Ⅱ
7、春盛Ⅱ15、永真Ⅱ13、立意（立念か…
竹内注）Ⅱ9、道仲Ⅱ7、盛真Ⅱ7、云
玉Ⅱ7、云遍（別本では云兼）Ⅱ…句上
に無記を「御」と記「句上」有〔資料
種別・番号〕X〔所在〕忌宮神社

傍線部に示した「句上^{くあげ}」とは、この連歌
巻の末尾に書きつけられた、作者とその句
数の一覧表のことです。実見できていない
のが何とも心残りながら、忌宮神社（山口県
下関市）に所蔵される連歌巻には、この句上
の発句作者が「無記」とされた上で、それ
を「御」と記している、という指摘が注目
されます。なお、『連歌総目録』には先ほど
参照した大阪天満宮本の存在も示されてい
ますが、いずれも発句作者を「御」として
おり、「御」＝秀吉、という『国書総目録』
のような見方はされていませんでした。

『連歌総目録』が示唆するように「御」が
秀吉ではないとするならば、いったいこの
「御」とは何なのでしょう。それを考える上
で「賦物^{ふぶつ}」として示された「夢想」という
表現に注目できます。「賦物」とは連歌・俳

諧の百韻または歌仙の一巻全体を規制する形式のことで、今回のケースでいえば賦物が「夢想」になります。これを夢想連歌と言います。夢想連歌とは「夢中で神仏に示された句を発句もしくは発句を脇として作られた連歌」（廣木一人編『連歌辞典』）と定義されるもので、『角川古語大辞典』には「夢想の句は作者名を「御」とする」とあります（連



↑ 国立国会図書館蔵『夢想之連歌』

歌総目録』を確認する限り、「御」の作者は夢想の句とみて間違いないようです。これに従えば「御」は夢想の句、すなわち秀吉の句ではないことになります。そう考えるならば、この連歌巻は毛利家一族によって為された夢想の連歌巻であり、前述した秀吉に関する疑問は解消されることになります。他に秀吉を「御」とする例がなく、夢想連歌において発句を「御」とする習慣がたしかに確認されること、さらにこの後述べる天正二十年八月時点での毛利家の動向からしても、本連歌巻は秀吉の連歌ではなく、毛利家による夢想連歌として認めるべきでしょう。

さて、最後に、この連歌巻が果たして本当に住吉大社に奉納されたものなのかどうか、確認しておく必要があります。十二頁に掲げた写真からはっきり確認できることですが、冒頭に「住吉奉納連歌」と示されています。延徳二年（四九〇）九月に高名な連歌師である宗祇が住吉社に夢想を発句とした独吟百韻を奉納していることから（鶴崎裕雄「夢想連歌・和歌」、夢想連歌を住吉大社に奉納するのは決して不自然なことではないのですが、この連歌が住吉大社に奉納されたものか、摂社および末社、全国に散らばる分社に奉納されたものかは検討の余地

が残ります。天正二十年の八月、毛利輝元とその一族はどこで何をしていたのでしょうか。

実はこの時、毛利一族は日本にいなかったことがわかっています。諸書を参照すると、ちょうどこの年の二月、輝元は朝鮮に渡海し、四月に釜山^{プサン}に上陸しています。その後、転戦しつつも五月十六日に発病、六月から慶尚道開寧^{キョンサンドアクリョン}に留まり、この年はここで越年しています。帰国するのは翌年八月のことですから、毛利一族は天正二十年八月時点では、朝鮮の開寧にいたことになりました（以上、藤井譲治編『織豊期主要人物居所集成』参照）。輝元が発病して数か月経っていますから、小康状態で連歌会を催すことができたのかもしれませんが。今のところ私はこの連歌から朝鮮渡海の状況を詠んだと思われる

参考文献

- ・『補訂版 国書総目録』第五卷（岩波書店、第二版、一九九四年）
- ・『連歌総目録』（明治書院、一九九七年）
- ・鶴崎裕雄「夢想連歌・和歌―学際的研究を目指して―」（『国文学』第一〇一号、関西大学国文学会、二〇一七年）
- ・鶴崎裕雄「戦国武将の千句連歌―明智光秀の五吟一日千句を中心に―」（『国文学』第一〇四巻、関西大学国文学会、二〇二〇年）
- ・名古屋博物館編『豊臣秀吉文書集 五・天正十九年・文禄元年』（吉川弘文館、二〇一九年）
- ・廣木一人編『連歌辞典』（東京堂出版、二〇一〇年）
- ・藤井譲治編『織豊期主要人物居所集成』（思文閣出版、二〇一六年）

付記

本稿を為すにあたり、鶴崎裕雄先生に多大なるご教導を賜りました。記して深謝申し上げます。JSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたことを併せて付言いたします。

る句を見出せていないのですが、今ある写本の日付を信用するならば、この連歌は朝鮮半島で毛利家一族とそれに同行した連歌師により詠まれ、のちにそれが住吉社（本社：摂末社・分社いずれかは不明）に奉納され、写本の形として伝来したものと思われるのです。

以上、今回は毛利輝元が奉納した連歌巻を中心に取り上げました。さて、まもなく夏休みです。この休みを利用して海外出張企画を立ててみました。オーストリアのエッゲンベルク城に所蔵される「大坂屏風全図」について、現地を訪れてレポートしてみたいと思います。その他、オーストリアに眠る新たな秀吉関連のコレクションについても、いくらかご紹介したいと思います。

わすれ草によせて

はじめに

秋分を中日とする前後三ヶ日、計七日間を秋彼岸と称す。この彼岸の供物を「茶の子」と呼ぶ。また秋彼岸の頃に咲く花を「彼岸花（曼珠沙華）」と名付く。「彼岸花」は彼岸節を象徴する花とつけとめられ、墓前に供されもした。為に「ワスレ草」とも呼ばれる（柳田『野草雑記』）。すなわち、死者との精神的訣別をはかり得る草である。

亡き人（死霊）を弔うに香草を以てする事は中国に幾らも例の存することであり、『詩経』と並び称される前秦時代の詩集『楚辞』（屈原作と伝う）には顕著とみうけられる。つまり、香草を媒ちとして祭祀者が神霊と結びつく様が詠われているのである。

翻って住吉大社に目を転ずると、社頭を彩る御神木の象徴は松である。そこには千年・万年といった経歴を約束する思いが宿る。御神事を象徴する花は卯の花である。では「参詣の想い出は」となれば「忘草^{わすれぐさ}」であろうか。

ところが、当該「忘草」について、実はさ程明確にはなっていない。それというのも「忘草」が多数の草木に比定されて居り、一種に固定されることを拒んでいるからである。

例えば、『住吉名勝図会』巻四には

忘草（一に曰く、忍草。また曰く、水仙。また曰く、青木香。また曰く、山吹。また曰く、うつ木。また曰く、紫苑。また曰く、唐芥子に似たり。また曰く、萱草。また曰く、別に忘草と云ふあり、と）

と九種を掲げている。しかし、これで網羅されているわけでもなさそうであるし、住吉社的に如何なる意味を有するか、は又別の問題である。

そうした中、こゝでは「萱草^{クワシヤク}」を中心として「わすれ草」のこゝを見ておきたい。「萱草」は『和名抄』（渋川版）に

萱草^{ワスレグサ} 兼名苑ニ云萱草。一名、忘^レ憂。萱ノ音、喧。漢語抄^三、和須礼久佐。俗ニ云如^シ環藻ノ二音^一

としている故のことである。

以下、薬用植物名（葉種^{クワシヤク}）を指しては「萱草」と呼び、文学対象としては「わすれ草」というを原則とする。

一 「わすれ草」の証歌

「わすれ草」を詠う歌は数多く認められる。証歌は『万葉集』からすでに存するが、ここでは全歌を網羅する訳ではない。住吉大社とわすれ草との関係に限定して、しかもほぼ平安期の歌を掲げる。例えば『類題草野集』雑中に

荷田春満

春木萌え秋は花咲くわすれ草をり忘れぬる名に依ざりける

とあれど、これは対象としない。別の意味が付加される故である。

ここで摘出に用いるテキストは基本的には『新編国歌大観』である。摘出にあたり、仮名表記を漢字表記に改めた部分がある。

住吉

ア 古今卷十七（雑）、九一七番歌（忠岑集一六一にも）

あひ知れりける人の住吉に詣でけるによみてつかはしける

壬生忠岑

住吉とあまは告ぐともながゐすな人わすれ草生ふといふなり

イ 拾遺卷四（恋四）、八六九番歌

題しらず

住吉の現人神にちかひても忘るゝ君が心とぞきく

ウ 新古今卷十五（恋五）、一四二〇番歌（元真集三〇九第二句「恋わすれ貝」二作ル）

題しらず

藤原元真

住吉の恋わすれ草種たえてなきよに逢へる我ぞかなしき

エ 清少納言集一二番歌

住吉に詣づとて、いととくかへりなむ、その程に忘れたまふなといふに

いづかたにしげりまさとわすれ草よし住吉とながらへてみよ

オ 国基集一二五番歌

（加賀佐衛門命婦へ）かへし

住吉はわすれ草ぞと言はるれば人にあふひを植ゑてまつなり

カ 範永集五〇〇五一番歌

ひとつのもとより、かくいひたる

難波がたなにかうらむる住吉の岸の草をも今はつまなむ

といふかへりごと

住吉の松にてとしはすぐすともよもわすれ草つまじとを見む

キ 隆祐集二八八・二九一番歌

少將（伊成朝臣）、又都より

住吉の海士のたく縄うちはへてわするゝ草は枯れやはてなん

返し

住吉の海士のたく縄くる人のかるれば枯れぬ草の名ぞうき

住吉岸

ク 拾遺卷十四（恋四）、八八八番歌

題しらず

よみ人しらず

住吉の岸に生ひたるわすれ草見ずやあらまし恋はしぬとも

ケ 後拾遺卷十八（雑）、一〇六六番歌

住吉にまゐりてよみはばりける 平 棟仲

わすれ草摘みてかへらむ住吉のきしかたのよはおもひでもなし

コ 藤六集（輔相）一二番歌

うへのはかまをたたでえんといふ事を

住吉の岸に生ふてふわすれ草うへのはかまはたたずてふなり

サ 一条摂政御集（伊尹）六〇・六一番歌

ほどなく、たえたまひにければ、女ありし御文のはしにかきて

わすれ草年つむやどに住吉の岸いぶかく何おもひけむ

おとど、かへし

わすれ草なは住吉の岸ながら今はまつはといふ人ぞなき

シ 道綱母集十八・十九番歌

又

たえてなほ住の江になき中ならば岸に生ふなる草もがな君

かへし

住吉の岸に生ふとは知りにけりつまむつまじは君がまに／＼

ス 和泉式部集二四二・二四三番歌

津の国より人のいひおこせたる

わすれ草つむ人ありと聞きしかばみにだにも見えず住吉の岸

かへし

わすれ草つむ程とこそ思ひつれおぼつかなくて程の経つれば

セ 和泉式部続集八三番歌

ならはぬさとのつれづれなるに

わすれ草われかく摘めば住吉の岸のところはあれやしぬらん

ソ 同集二一〇番歌

怨ずることある男の、このたびなんわすれはてぬる、といひたるに

わすれ草つみけるたびと住吉の岸にこすまで浪のたてかし

タ 長秋詠藻（俊成）七三番歌

わすれ草摘みにこしかど住吉の岸にしもこそ袖はぬ
れけれ

チ 拾遺愚草（定家）一六三八番歌

秋の夜は摘むとい草のかひもなしまつさへつらき住
吉の涯

ツ 明日香井集（雅經）六八二番歌

忘草

住吉のきしかたをやはわすれ草松にふりぬる身を思
ふにも

テ 有房集三三三番歌

男にわすられたる女にかはりて

住吉の岸ともいはじわすれ草人の心に生ひけるもの
を

ト 後鳥羽院御集七九番歌

正治二年八月、御百首「恋十首」^内

住吉の岸に生ふなり尋ねみんつれなき人は恋わすれ
草

ナ 壬二集（家隆）二八三番歌

わがために君ぞ摘みける住吉の岸に生ふてふ人わす
れ草

住吉浜

ニ 拾遺愚藻二二四番歌

なみ風の声にも夏をわすれ草日数をぞつむ住吉の浜

住之江

ヌ 拾遺集卷八（雑）、四六六番歌（コノ歌『貫之集』
七番歌）

題しらず
よみ人しらず

うちしのびいざ住の江のわすれ草忘れて人のまたや
摘まぬと

ネ 齋宮女御集九四番歌

わすれ草生ふとしきげば住の江の松もかひなくおも
ほゆるかな

ノ 建礼門院右京大夫集七七・七八番歌

とかく物おもはせし人の、殿上人なりしころ、ち
ちおとどの御ともに住吉にまうでて歸りて、洲浜
のかたむすびたるに、貝どもをいろいろにいれ
て、わすれ草をおきて、結びつけられたりし

浦みてもかひしなれば住の江に生ふてふ草をたづ
ねてぞみる

かへし、秋のことなりしかば紅葉のうすやうに
住の江の草をば人の心にて我ぞかひなき身をうらみ
ぬる

住之江岸

ハ 古今集墨滅歌、一一一番歌

つらゆき

道知らば摘みにも行かむ住の江の岸に生ふてふ恋わ
すれ草

ヒ 拾遺愚草一五七五番歌

忘住所恋

いかにせんたのめし里を住の江の岸におふてふ草に
まがへて

二 紀貫之の場合

「わすれ草」を歌に詠むことは、すでに『万葉集』に幾
首も認められることである。例えば三三四・七二七・
三〇六・三〇六二番歌等がそれである。しかし乍ら、こ
れを歌語として定着させ、住吉社社頭の景物としたのに
は紀貫之の力が大であった。

貫之の「わすれ草」詠は次の如くである。

貫之集卷一、七番歌

延喜六年つきなみの屏風八帖が料のうた四十五
首、せじにてこれをたてまつる廿首わすれ草

うち忍びいざ住の江にわすれ草忘れし人の又や摘ま
ぬと

同集卷一、三七番歌

延喜十四年十二月、女四宮御屏風料のうた

住の江のあき満つ潮にみそぎして恋わすれ草摘みて
帰らん

古今和歌六帖第六帖、「わすれぐさ」項三八四七、
三八四九番歌

道知らば摘みにも行かん住の江の岸に生ふてふ恋わ
すれ草（三八四七）

住の江に生ふとぞきゝしわすれ草人の心にいかで生
ひけむ（三八四八）

住の江に船さし寄せよわすれ草しるしありやと摘み
に行くべく

右五首、貫之は住の江の景物として「わすれ草」を詠み合わせている。つまり、貫之は「わすれ草」を住吉社社頭の景物と認定していることになる。

加えて、「わすれ草」を屏風歌として詠っているが、この事は大変に重いものがある。「わすれ草」は幾種類もの草木に比定され或いは虚なる物とも説かれる。しかし、屏風歌として詠われ、その屏風が画を伴っていたのであれば、虚実交々の世界から抜け出して実像を結ぶことになる。

斯くて、貫之の「わすれ草」詠は極めて重い意味を持つ。

三 住吉神と「わすれ草」

貫之は住吉と「わすれ草」とを結びつけた。しかし、何故両者が結び着くのかは不明のままである。この不明に一定の解決を与えるのは『古今和歌集灌頂口伝』（片桐『中世古今集注釈書解題 五』所収、大学堂）「十箇大事」条に見える所説である。

第九、萱草事

本抄に委く注せり。されども実義をのせず。昔、吉岐の守源の義真といふ人、住吉の岸に行て忘草を尋しに、かの岸には山吹・青木香あきぎといふ草より外は生ざりければ、いづれともしりがたくして、二つながらとりて住吉の社にさしをきて御託宣を聞に、御帳台の中より、山吹の花は色々にほへどもながき草をぞ忘とはいふ

これより青木香を忘草と定たり。但、住吉にかぎりて浦によりむ事は、昔、住吉明神、天宮を奉恋て天へのぼらんとし給ければ、八百万神たち集らせ給ひて、此神をとめたてまつらん為に大唐の瀛州より今の萱草を取て住吉のきしに一夜にうへ給しかば、明神恋を忘れて日本にとゞまり給しゆへなり。

とあるがこれである。瀛州に萱草が生うとの説は、則天武后に愛された詩人季嶠の『季嶠百二十詠』にあり、これを承けて本朝の源光行が著わした（元久元年）『百詠和歌』（続群書類従所収）に

萱

忘憂自結叢。萱草の一の名。丹棘なり。丹棘をを

りて人憂をわする。忘憂草是なり。瀛州に生たり。名、長樂。即萱草なり。

野辺の色に秋の心もわすれ草虫はうらむる比と聞とも

香伝少女風。管輅日てりのとき、清河を過ていはく。けふ雨下へし。樹上に少女の風ありと云。しはらく有てはたして雨くたれり。西方を少女とす。西の風吹て雨ふる故なり。萱草の香、此風にかほるなり。

天津風をとめの袖をそめてけり野原の花のかをさそひきて

とある。三神山の一つ瀛州に生えいるとされている萱草を、八百万の神たちが住吉神の恋心を忘却させんと住吉の地に移し植えたというのである。

ちなみに「少女風」は、雨が降る前に吹く微風で、対語は「少男風」。少女風にのってわすれ草の香が伝わって来る。前掲貫之歌「住の江の朝満つ潮にみそぎして」が想起されてくる。

斯くして、住吉社社頭の地に「わすれ草」が生うとする信仰的因は明らかである。

四 住吉社神事と「わすれ草」

『住吉松葉大記』巻十二、神事部十一、六月大祓後「申刻火替神事」条は

申刻火替神事、神人二人参申案内、両官布衣出仕、御前立二高机二脚、御前庭上敷二小文量二帖、両官著座北総官、南權官、御供四膳備二高机、祢宜奏二祝詞、再拜畢、其次以二備進神供、居二両官前、倍膳神官酒一献、御飯入汁食也、両官御介役人撤二萱草御飯二裏二取之、次各退出了、

とし、また『同』十四、供膳部十二、「六月晦日、日替御供」条には

握飯一箇、茄子二截、白瓜二截、裏菜一箇、内四膳菜二箇所謂萱草、御箸御盃、居二六寸神酒、入二南伊呂、神供以上、廿四膳。

とある。これは六月晦日、住吉神輿堺渡御の帰るさ、大和川の橋上で斎行される神事で、和泉国の火を、帰り入るべき神域たる摂津国住吉の火に替るのである。送り火

を迎え火に改める神事。この火替神事の御供を「萱草御供」と称すると言うのである。

いう迄もなく、住吉大神は禊祓の御神徳を以つて出現し、仰がれて来た。我々は日常を営む上で、知つて知らずて身を穢し元気を害なうことになる。それを折りにふれて浄め浄化まろうとする。つまり一新を計ろうとする。この行為が禊祓である。悩み、愁うことは氣に障る種である。住吉大明神は、この身心に付積するものを取り除く御神徳をお持ちになる神なのである。その神の火を一新する神事の御供に「萱草御供」が認められることは誠に尊い。

五 その他

萱草は一名を「宜男^{ぎだん}」というが、この「宜男」名は萱草の花弁を指す。『博物誌』（上海書局版）に

萱草 食^レ之令人好^レ歡樂、忘^レ憂思^二。故謂^二房憂草^一。婦人有^レ孕、佩^二其花^一則生男、亦名宜男草。とある。すなわち、『万葉集』巻四、七二七番歌の同伴家持歌に

わすれ草わが下紐に着けたれど醜^{しづ}の醜草言にしありけり

と詠われる如く、浮気封じの護符として男性の下紐に着けられたが、妊婦がこの花を帶すれば男児を得ると考えられた。「男子を産むの呪符」と俗に信じられたのである。こうして萱草の花は婚礼雑器に描かれ、「宜子係」と名付けた画題ともなった。これは「一寸法師譚」の初発部分と関わるか。

次に、『摂津名所図会』は巻二に

萱草墳^{かんぞうづか}（大名塚より一町ばかり南に有り）

といい、「萱草墳」なるものが存在するという。同書ではこれを「萱草、官女に相通す」とする。忘れてならぬ小粋な扱いである。

住吉大社小出英詞氏の御教示に依れば、此の墳は旧住吉村萱草塚二一八七番地（現、阿倍野区北島三丁目一番）が跡地という。『東成郡誌』・『住吉村誌』・『東摂陵墓図誌』に扱われている。

この墳墓、被葬者は何処の某とも知れない。かつて某

かが萱草^{わすれ草}を植え、やがてそれが繁茂した時代があったのではないか。『八雲御抄』巻四「言語部」は親の亡き後の孝養について、その墓に萱草を植える話を記している。これは『今昔物語本朝世俗編』巻三十一第二十七話にもある。「うれしき事（忘れる必要なく大切にすべき事）のあらむ人」は紫苑を、「なげく事（忘れてしまいたい事、忘却の心）」を持つ人」は萱草を、植ゆとの話である。『摂津名所図会』所載の「萱草墳」にこれを充當させる時、その扱いの小粋さが忍ばれることだ。

おわりに

亡き人を忍び続け、過ぎし日の恋の虚実を忘却し解き放たれる。この一新を得んが為に人は「わすれ草」を求める。「わすれ草」は住吉大明神御鎮座地に生えているとされた。身心の一新は住吉大明神の御神徳の証なれば当然と謂わばならない。

松樹が永遠の証であるのに対して、「わすれ草」は区切の景物として記憶されてよいのである。『住吉大社神代記』を見読したことのある藤原定家は、『新拾遺』巻十六（神祇）、一四四一番歌に

西行法師すめ侍りける百首に

うき事もなぐさむ道のしるべにや世を住吉と天くだりけん

と詠っている。また、『道綱母集』十九番歌には

住吉の岸に生ふとは知りにけり摘まむ摘まじは君がまにまに

と、強く生きる女性も存在したことである。

古高燈籠 鬼門除猿瓦

令和4年11月30日 辻本匡子様・城森有子様 奉納

住吉の旧社家・梅園家に伝来した猿瓦をご奉納いただきました。これは旧高燈籠の屋根、北東角に設置されていた鬼門除けの猿型の瓦です。文政10年（1827）再建時（掛り役、梅園直蔵）に掲げられ、明治41年（1908）再建まで使用されたものと伝えられます。その後、所縁ある梅園家において大切に受け継がれてきました。

頭に烏帽子、胴に袖無し羽織、手足と体に体毛が細かく刻まれ、両手には御幣を捧げ持ちます。錆びた御幣は銅製で、銅線が長く垂れており、避雷針の役割を果たしたともいいます。本体は数ヶ所の割れがあり、モルタルによる一部補修も見られます。

ちなみに、北東の角は鬼門（艮丑寅の角）と呼ばれ、古来より鬼が出入りする方角として忌み畏れられてきた。これを避けるため鬼門の反対（未申）の方角にちなんで猿型の造形による瓦を設置して、鬼門封じ、鬼門除けとする風習がありました。

現在、住吉高燈籠史料館（住吉公園の西隣）にて展示中。

公開日 第1・第3日曜 10時～16時

第2・第4日曜 10時～13時



美馬和傘

令和5年3月15日 徳島県美馬市 美馬和傘製作集団 奉納

徳島県美馬市の伝統工芸品「美馬和傘」をご奉納いただきました。令和5年3月15日、徳島県美馬市長の加美一成氏と美馬和傘製作集団の皆様にご参拝と奉納奉告祭を執り行ないました。

かつて徳島県美馬市は和傘作りが盛んでしたが、近年では衰退の一途を辿っていました。平成23年地元有志によって、伝統工芸の火を絶やすまいと「美馬和傘製作集団」が立ち上がりました。先年より当社とご縁があり、奉納の和傘は直径約190センチの特別仕様です。結婚式でも使用する差し掛け和傘の様式を基に、朱色に社紋を抜き、内側の小骨部分には結界や魔除けとなる五色の糸飾りで装飾し、約1年を費やして完成させた美しい和傘です。伝統ある和傘の製作者が減少した今日において、「和傘の素晴らしさを世に広く発信して、伝統工芸の技術向上と継承をはかってゆきたい」との思いでご奉納いただきました。ご崇敬の皆様方におかれましても、美馬和傘をご覧いただき、ご理解とご助力を賜わりますと幸いです。



住吉大社御文庫の蔵本『装剣奇賞』初刷本と ブロックハウス本『Netsuke 根附』初版本

富山短期大学 客員教授、元日本根付研究会 会長 (2013-2016)

木村 郁子

住吉大社の境内に御文庫 (2018 年に国登録文化財) があることを知ったのは、生き物文化誌学会大阪例会 (2019 年、伝統野菜の文化誌) が住吉大社で開催されたのがきっかけであった。権禰宜である小出英詞氏が境内案内をされた。

「住之江にある住吉大社は、明石海峡、生駒山、法隆寺と、北緯 34 度 36 分の同一緯度にあり、遣隋使・遣唐使の発着場所であった。堺 (中世) の南蛮船、大坂 (近世) の北前船・菱垣船などの信仰的起点でもあった。境内には千年楠、島津家初代・忠久公の誕生石、淀君の太鼓橋などの名跡、井原西鶴の大矢数俳諧 23,500 句独吟の資料に加えて、御文庫がある。そこには御文庫講の庶民から特に初刷本を奉納する例が多く、当時の国会図書館のような存在であった。安全のため、住吉大社御文庫と同種のものが、大坂の天満宮にも建立されたが、大塩平八郎の乱で焼失し、その後、復興した。住吉大社御文庫の蔵本は虫干し (曝書) を 5 月に、天満宮御文庫は 10 月に実施される。」



1. 『装剣奇賞』巻之一から巻之七の全7冊



2. 住吉大社御文庫への納本を執次いだ御文庫講の長、秋田屋 市三の署名



3. 『装剣奇賞』(後修本)の中表紙

『装剣奇賞』の初刷本 (天明元年 1781) は天明二年 (1782)、住吉大社御文庫に奉納されたことが、『住吉大社御文庫目録』の武具 3 の項目に記載されている。著者は稲葉新右衛門、号は

通龍（1736-1786）で、大坂鹽町筋心齋橋西入に在住し、刀剣の飾り具や雑貨を商う町人であった。商いの対象を、自らもつと深めるため、商売を後進に譲って、調査に専念し、『装剣奇賞』を執筆した。翌年、御文庫講世話役の長であった秋田屋 市三の執次によって住吉大社に全7巻（序・準、貳、参、肆、伍、陸、付録・柴全）を納本した。巻之七には付録として日本最古の根付師名鑑が記載され、異国情緒の優れたデザイン画が描かれている。



4 a 『装剣奇賞』巻之七 〇一七表



4 b 『装剣奇賞』巻之七 〇一七裏

4a,b. 『装剣奇賞』巻之七、〇一七、表、裏に記載のデザイン画（藤江喜平次が刻む）

さて、根付は印籠やたばこ入れに付けて帯に挟み、ポケットがない着物が主流であった時代に汎用され、貴重品が落下しないようにする生活必需品であった。根付は江戸、幕末、明治時代に主に作成され、浮世絵、蒔絵と並ぶ日本の三大美術品の一つと評価され、現代に引き継がれている。海外へ多く輸出され、盛んに蒐集、研究され、世界各国の美術館に収蔵・展示されている。海外の出版物として代表的なものに、Friedrich Albert Brockhaus (1855-1921) (息子 Rudolf Heinrich Brockhaus は百科事典を編纂、ドイツ) による1905年の『Netsuke 根附』がある。ブロックハウス初版本は500部のみ印刷され、大変な人気ですぐに完売になり、1909年に第2版、彼の没後1921年に第3版が出版された。1924年には英語の翻訳版『Netsukes』が出版された。また、Frank Morris Jonas (イギリス) による1928年の『Netsuke ねつけ』がよく知られている。日本では、1943年に上田令吉の『根附の研究』があり、1961年、Reymond Bushell による英語翻訳版『The Netsuke Handbook of Ueda Reikichi』が出版されている。国際根付ソサエティのコンベンションが2年ごとに開催され、最近では2022年5月末にオランダのアムステルダムで開催された。このように、根付は日本より海外で早くから周知され、日本の文化遺産に相当すると認識されている。



5 a. ブロックハウス初版本の表紙



5 b. ブロックハウス初版本97頁



5 c. ブロックハウス初版本98頁

5b,c. 4a,b. の転載

120年前に出版されたブロックハウス初版本『Netsuke 根附』は、東京、赤坂にある公益社団法人OAGドイツ東洋文化研究協会に寄贈されている。私は2020年9月に訪問し、全頁をコピーする機会が得られた。その中身の印刷、特に根付の写真がすくすくきれいで、透かし入りの和紙で保護されている。また驚くことに、『装剣奇賞』のデザイン画がそっくり転載されていて、印刷がすくすくきれいで、掠れていなく、120年を経過しているとは到底信じられないくらい、いい状態にあった。ただ、表紙は傷んでおり、その染料のべたつきで手が汚れ、コピーの途中で何度も石鹸で手を洗う必要があった。

240年前に印刷された『装剣奇賞』には手稿本（大阪府立図書館蔵）、後修本もあり、コピー版は巷に数多く存在する。原本が板木印刷のためか、特に画像の一部が掠れて不明瞭なものが多い。ブロックハウス初版本に転載されている『装剣奇賞』のデザイン画は、全く掠れて

いないので、後修本、初刷本のいずれから転載されたのかを知る必要があった。そこで、まだCOVID-19禍が衰えぬ最中の2022年1月末に、住吉大社御文庫の『装剣奇賞』初刷本に御目にかかることになった。

住吉大社御文庫にある『装剣奇賞』初刷本は板木印刷されたものであるが、毎年、虫干しされているせいか、ブロックハウス初版本の表紙のようなべたつきは全くなく、著者、通龍による捺印の印影の退色も見られず、鮮やかで、納本を執り扱った秋田屋市三（御文庫講の世話役の長）の墨汁による署名も明確に残っている。異国情緒豊かなデザイン画が挿入されたページの枠外に、板木刻みは藤江四郎兵衛刻、藤江喜平次刻、山本傳兵衛刻の文字が読み取れる。初刷本の板木印刷は和紙になされ、概ね、きれいで掠れがない。板木は浪華



6 b. 友忠の銘



6 a. 友忠の虎、3.2cm

6 a,b. 『装剣奇賞』 卷之七、〇九、裏に掲載の根付師の一人、友忠の根付とその銘（個人蔵）

芝翠館が所蔵し、版權を持っていた。ブロックハウス初版本では、『装剣奇賞』初刷本のデザイン画にある日本語の挿入文字はすべて削除されている。一方、巻之一の中表紙に、『装剣奇賞』の文字枠外に描かれている、星座と蝙蝠のデザイン画は、初刷本では退色して不明瞭であるが、後修本では明確に読み取れる。ブロックハウス初版本ではこの星座と蝙蝠のデザイン画は転載されていない。結論として、ブロックハウス初版本に転載されたデザイン画は『装剣奇賞』初刷本や後修本の、板木印刷のいい状態のものから転載されたと推論できた。

参考文献

- ・稲葉（通龍）新右衛門『装剣奇賞』（浪華芝翠館蔵板、天明元年（1781年））
- ・Albert Brockhaus『Netsuke根附』（Versuch einer Geschichte der Japanischen Schnitzkunst, Leipzig, Deutschland, 1905年, 1909年, 1921年）
- ・Albert Brockhaus『Netsukes』（translated into English by M.F. Watty, and edited by E.G. Stillman, Duffield & Company, New York, 1924年）
- ・Frank M. Jonas『Netsuke ねつけ』（Charles E. Tuttle Co. Rutland, Vermont, Tokyo, 1928年）
- ・上田令吉『根附の研究』（金尾文淵堂、大阪、昭和18年（1943年））
- ・Reymond Bushell『The Netsuke Handbook of Ueda Reikichi』（Charles E. Tuttle Co., Tokyo, 1961年）
- ・住吉大社編『住吉大社御文庫目録』平成15年5月15日初版発行（大阪書林御文庫講ら発行、発行所 清文堂出版（株）、2003年）
- ・Kimura Ikuko and Tanida Yūshi『Contemporary Netsuke of Maki-e, Raden, Shibayama-zaiku, Kutani-ceramic wares and Kagamibuta』Int Netsuke Soc J, 42(2), 16-27, 2022
- ・Sue Romaine『Convention week in Amsterdam』Int Netsuke Soc J, 42(3), 6-13, 2022

住吉大社御文庫へ奉納される出版物（書肆・書林）は初刷本（初版本を含む）が多いこと、また、毎年、虫干しをされていることが200年前の板木印刷本を今日につつがなく伝えていると言えよう。

以上の説明は、住吉大社 権禰宜、小出 英詞氏のご協力によるもので、心から感謝したい。

社務日誌抄

(令和四年二月から令和五年四月分まで)

令和四年(二〇二二年)

一月

- 一日 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭(※以下、各恒例祭に併せて疫病流行鎮静祈願祭を執行)。
- 二日 津守国治筆「元日和歌発句」詠草一幅・津守德基筆「禁中紅葉」詠草一葉、寺田孝重氏奉納。神社庁教化委員会神社実務研修会、川畑岡禰宣受講。東粉浜小学校一年生、境内どんぐりひろい。近畿税理士会住吉支部ボランティア献血境内使用。宮司以下参籠。
- 三日 明治祭(中祭)。五社秋季例祭。モンゴル国文化大使 佐藤紀子氏来社(催事打合)。すみよし歴史案内人の会、古事記で住吉大社をめぐる」境内使用。
- 四日 壇使、神武権宮司・西角権禰宣・園田社務員奉仕(奈良県橿原市雲名梯川俣神社・畝火山口神社)小山手神人見学。高野山大学密教研究会 富田弘子氏来社。大阪府神社総代会・伊勢神宮崇敬会大阪本部理事會評議員会、川畑禰宣出席。神事用力サスゲ試験栽培開始。
- 五日 四恩学園七五三詣(大阪帝塚山RC)参拝。BS 一二三団会議、西角権禰宣出席。
- 六日 吉祥殿ブライダルフェア。
- 八日 市立清江小学校はぐくみネット事業授業 岡禰宣講師、日下権禰宣助手。
- 九日 御田収穫(公財)関西・大阪21世紀協会専務理事 大西晃氏以下来社、御田植神事打合。
- 一〇日 卯之日祭。市戎大国社月次祭。高野山真言宗河内宗務支所特別伝道大会「住吉さんとお大師さんー新しい時代の船出」催行、同管長・総本山金剛峯寺座主 葛西光義大僧正以下神仏合同法要祭典奉仕。朝日新聞・大阪日日新聞・仏教タイムス取材。春日大社若宮式年造替奉祝行事、岡禰宣出席。阪南中学校生徒五名、職場体験学習受入(翌日迄)。

- 一日 初辰祭。住吉警察署、交通安全指導境内使用。朝日放送テレビ「コイロ」境内撮影。
- 二日 静岡市美術館学芸員 高橋哲也氏来社(出展依頼)。オランダ「マイオットボンジョイ」境内撮影。
- 三日 大海神社月次祭。装道礼法きもの学院、七五三詣きもの救助隊奉仕。BS 一二三団、交通整理奉仕。
- 四日 うどんや風一夜葉本舗代表取締役 末廣伸二氏夫妻参拝挨拶。
- 五日 十五日祭・七五三祝祭。粉浜学園七五三詣 園児二二六名参拝。元総代 故藤本敏雄氏通夜、宮司弔問。
- 六日 初詣警備打合会議(住吉警察署)岡禰宣出席。教学顧問 八木意知男氏来社。鉄道チャンネル「新鉄道ひとり旅」境内撮影。
- 七日 神社庁第九支部 神宮大麻層頒布始奉告祭(住吉大社)神社庁長 藤江正謹氏参列。みずほ銀行住吉支店、岡禰宣訪問 駐車場借用依頼。高野山真言宗特別伝道大会反省会、逸見禰宣・太田権禰宣出席。
- 八日 大阪府玩具人形問屋協同組合連合会・大阪玩具人形住吉講 講元 熊本和浩氏以下三〇名定例参拝総会、神武権宮司・太田権禰宣出席。
- 九日 JA 大阪市 技術部門農作物品評会「住吉大社賞」授与・農作物奉納式 会長 井波一眺氏以下二二名参拝。
- 一〇日 海上交通安全祈願祭。(一財)住吉村常盤会 村内安全祈願参拝。故田中勝弘氏お別れ会、神武権宮司・小出権禰宣参列。埼玉県さいたま市岩槻区仲町住吉神社自治会長 福井愛子氏以下四名参拝。タイムズ24(株)、岡禰宣訪問(駐車場借用依頼)。るるぶ取材、武田権禰宣応対。
- 二二日 本殿清掃。特殊神饌調製。市立南津守小学校社会見学、岡禰宣講師。横貫芳子氏来社奉賛。宮司以下参籠。
- 二三日 新嘗祭(大祭)。責任役員 太田重彦氏、御田講・蓬菜講副講元 濱田孝氏・山本巖氏以下講員一九名参列、住吉踊保存後援会奉仕。にんやか田邊「神馬の道再現ウォーク」参

二四日 大府神社スカウト協議会総会、山下権禰宜出席。
兵庫県加西市北条住吉神社宮司 林垂栄氏・総代長 黒田義隆氏以下一七名参拝。港住吉神社副総代長 赤野久雄氏来社。故梅園敏子氏宅、神武権宮司・小出権禰宜弔問。天王寺楽所雅亮会、日下権禰宜訪問(催事打合)。

二五日 大阪木材商住吉講議長 大和秀樹氏以下一三名定例参拝。歴史探訪「住吉大社と高燈籠をめぐる」岡禰宜講師。

二七日 御祓講獅子会議、万力禰宜・西角権禰宜出席。

二八日 浅沢社月次祭。天王寺楽所雅亮会雅楽公演会「秦姓の舞」秦河勝と天王寺舞楽「東野囀託奏楽。日下権禰宜以下三名出演。立浪部屋断髪式、石橋主事参列。

二九日 静岡県神社総代会清水支部長 青木禧幸氏以下一一名参拝。高野山真言宗河内宗務支所 野口真龍氏以下一一名来社(催事打合)。

三〇日 定例清掃。職員会議。旧梅園家蔵古猿瓦号「國彦磨」辻本匡子氏・城森有子氏奉納。モンゴル日本外交関係樹立五十年記念公演 モンゴル国立馬頭琴交響楽団演奏会(東京NHKホール)宮司以下参列。粉浜商店街「こはま日和」誌面企画、小出権禰宜参加。

一二月

一日 朔日祭。東粉浜小学校、岡禰宜訪問(演奏会打合)。

二日 大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。住吉村常盤会行事、小出権禰宜参加。雪本雅彦氏来社。NHK関西ラジオワイド取材、武田権禰宜応対。神道青年会事業、宮崎 附柴権禰宜応対。

三日 BS一二三団会議、福山権禰宜以下五名出席。

四日 卯之日祭。「鹿目嘉代子から」展、宮司・神武権宮司観覧。初辰祭。四天王寺樟蔭忌 東野囀託奏楽。モンゴル国立馬頭琴交響楽団奉納演奏会(モンゴル国文化大使 佐藤紀子氏、市立東粉浜小学校三・四年生他五〇〇名鑑賞、岡禰宜・宮崎権禰宜応対。

七日 御神酒講打合会、神武権宮司以下三名出席。宿院頓宮常任総代会、富澤権宮司・古布権禰宜出席。

八日 京都市上京区護王神社名誉宮司 文室隆紀氏・責任役員 澤野道玄氏以下二〇名参拝。大阪倶楽部美術茶話会委員長 松井完司氏以下二六名参拝。神道青年会臨時総会、日下

権禰宜以下四名出席。市立天下茶屋中学校生徒五名、職場体験実習受入(翌日迄)。

九日 広島県府中八幡神社、宮司参拝、高階 倉智権禰宜随行。粉浜地域女性団体協議会学習会、小出権禰宜講師。

一〇日 市戎大國社月次祭。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。大阪市文化財保護課「大阪の歴史再発見」見学会、高階権禰宜案内。二一世紀政経会、小出権禰宜講師。

一一日 おかもと眼科クリニック理事長 岡本直之氏、当社絵所預水江東穹氏来社。吉祥殿フライダルフェア。

一二日 産経新聞大阪本社、小出権禰宜訪問(献詠依頼)。

一三日 大海神社月次祭。

一五日 社報「住吉っさん」第三九号発行。東京都乃木神社宮司 加藤司郎氏来社。住吉隣保館寿かなえ会、小出権禰宜講師。市立大和川中学校生徒三名、職場体験実習受入。

一六日 堺市指定無形民俗文化財「住吉大社宿院頓宮の祓神事(荒和大祓神事)」本日付指定。吉祥殿「五感で楽しむ住吉っさん」催行。(学)浪速学院理事評議員会、神武権宮司出席。港住吉神社氏子総代会、宮司以下四名出席。

一七日 日本吟詠連盟三〇名参拝。正月奉仕者説明会。

一八日 東京大衆歌謡楽団演奏会参拝。TBSラジオ「森本毅郎スタンバイ」収録、河野権禰宜応対。

一九日 帝塚山派文学学会運営委員会、小出権禰宜出席。

二〇日 海上交通安全祈願祭。熱田神宮宝物館来社、当社所蔵資料八点貸出。国際宗教同志会理事會総会、富澤権宮司出席。セツツ(株)定例参拝、消毒液奉納。八幡産業(株)代表取締役 森良昭氏、神武権宮司・太田権禰宜訪問(撰社御簾奉納依頼)。住吉公園記念事業、小出権禰宜参加。

二二日 なにわ七幸会議、滝沢 進藤権禰宜出席。BSテレ東「羽ばたけ、あしたへ」楠瑠社撮影。

二六日 煤払式。消防訓練、自衛消防隊・宮司以下職員奉仕。本殿清掃。BS一二三団餅つき。雪本雅彦氏来社。読売新聞朝日新聞 毎日新聞 大阪日新聞 奈良新聞、正月授与品作業各取材。

二七日 神宮禰宜 吉川竜実氏来社。

二八日 浅沢社月次祭。

三〇日 (株)大水・(株)うおいち、日下権禰宜訪問(献魚依頼)。

三一日 師走大祓式。除夜祭。宮司以下参籠、年越。

令和五年(二〇二三年)

一月

- 一日 若水の儀。元旦祭。初詣(※正月三ヶ日参拝約一二八万人、昨年比約三六万人増)。境内出店不可。神賑行事なし。初詣特別分課実施。正月本殿祈禱・預かり祈禱開始。新年神樂各奉仕。警備本部開設。りそな銀行グループ、南海ビルサービス協力会社等、各清掃奉仕(三日迄)。朝日放送、大阪日日新聞、初詣取材。熱田神宮宝物館特別展「美術品で初詣―熱田で諸社へも初詣―」(当社所蔵資料「太刀銘」守家・舞楽面「喜徳番子」・同「秦王」※以上重要文化財指定、細川勝元筆御神号・同筆御神影※以上市指定文化財、他 神宝八点展示(令和五年一月一日～一月二四日)。閉門一九時。
- 二日 琴古流尺八美風会奉納演奏。読売新聞、毎日新聞、産経新聞、初詣取材。閉門一八時。
- 三日 元始祭。産経新聞 毎日新聞 読売新聞 大阪日日新聞 初詣各報道。
- 四日 踏歌神事。敷布講新年参拝。初詣関係各所回礼、神武権宮司・武田権禰宜各訪問。閉門一八時。
- 五日 チームベイコム、境内撮影。
- 六日 通常閉門一七時。TBSテレビ「THE TIME」境内撮影。
- 七日 白馬神事・昭和天皇陵遥拝式、神馬白雪号 杉谷昌保氏・川上正太郎氏奉仕、神馬講講元 河村博史氏以下講員参列。新年献詠短歌選者会 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏 選考。神稜講新年参拝。御神酒講新年参拝。大阪日日新聞、神事取材。
- 八日 四本宮並船玉社檜皮屋根防火放水(二〇日迄)。
- 九日 初卯祭。市戎大國社宵宮祭(宵えびす)、市戎大國講講元 北正彰氏・夏越女保存会会長 長田淳子氏・住吉御崎講講元 友澤洋一氏・住吉踊保存後援会 田中玲子氏・福娘各名、各講員奉仕(翌日迄)。同社ポスター・看板用デザイン 北田琳華氏・道満健生氏・木村菜都子氏、同社テーマ曲制作「住吉っさんえべっさん」田中勢也氏、「祭」稲村隆之氏奉納。
- 一〇日 初辰祭(※初辰まいは二の辰)。市戎大國社例祭(本えび

す)、前日同断。

- 一日 港住吉神社新年祭。みずほ銀行住吉支店鏡開き、当社所蔵住吉神像(市指定文化財)奉斎。
- 二日 若宮八幡宮例祭(湯立神事)、宮原幸夫氏(佐備神社宮司、関西雅楽松風会)以下神楽奉仕。
- 三日 御結鎮神事、奉射神事弓十番(住吉大社御結鎮祭大的式)大阪府弓道連盟会長 中野英夫氏以下二六名奉仕。宿院頓宮新年祭。大海神社月次祭。
- 四日 四本宮並船玉社防火放水実施。
- 五日 十五日祭・新年献詠祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、天位「ばち袋は多目に用意して行けとまた妻の言う年始回りに」若山巖氏、地位「去年より三倍大きな鏡餅家族増えたるふるさとの家」米谷茂氏、人位「椎茸の駒打つ山で友となる尉鶴今日も廻りを飛べる」佐藤政俊氏。古札焼納式(こんど)。
- 九日 大阪船主会海上安全祈願祭、大阪船主会会長 桜田治氏・近畿海事広報協会会長・近畿運輸局長・大阪海上保安監部長以下参列。
- 二〇日 海上交通安全祈願祭。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。
- 二一日 地域活動協議会東粉浜女性部、小出権禰宜講師。
- 二二日 初辰まいり(二の辰)。池田市亀之森住吉神社宮司 名村啓史氏来社。此花区体育厚生ウォーキング部会来社。
- 二三日 吉祥殿「五感で楽しむ住吉っさん」催行。
- 二五日 (公財)美術館・大阪市文化財保護課来社(文化財保存修理打合)。日経新聞取材。
- 二六日 文化財防火デー消防総合訓練、大阪市消防局・住吉大社自衛消防隊連携「消防総合訓練」実施。日本相撲協会大阪事務所、岡禰宜・河野権禰宜訪問(開設御祝)。住吉公園事業会議、小出権禰宜出席。
- 二七日 今主社例祭。和宗総本山四天王寺戒鵬 故奥田聖応氏、宮司会葬、星野権禰宜随行。
- 二八日 浅沢社月次祭。
- 二九日 徳川宗家第十九代徳川家広氏(継宗の儀(増上寺)宮司・岡禰宜参列。住吉踊会議、神武権宮司以下出席。
- 三一日 定例清掃。職員会議。

二月

- 一日 朔日祭。立間社例祭。海士子社例祭。住吉税務署 確定申告広報協力、宮司「収」揮毫、神楽女スマホ申告体験参加。読売新聞・毎日新聞・大阪日日新聞取材。
- 二日 卯之日祭。日本テレビ番組「Google pixel presents ANOTHER SKY」宮城野親方(元横綱 白鵬)来社収録。初辰祭。節分祭。港住吉神社節分祭。追儺步射式、弓馬術礼法小笠原教場奉仕。府警本部主催・神社庁協力「特殊詐欺被害防止啓発活動」境内使用。
- 四日 BS一二三団会議、福山 西角権禰宜出席。
- 五日 林やよい氏来社奉賛。
- 六日 南尚氏叙勲受章祝賀会、宮司出席、高階権禰宜随行。神社庁役員会、川畑禰宜出席。シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師。
- 八日 熱田神宮宝物館来社、当社所蔵資料八点返却。
- 九日 堺市博物館館長 須藤健一氏以下来社(催事依頼)。
- 一〇日 市戎大国社月次祭。神社庁主事 衛藤憲明氏来社。関西北前船研究交流セミナー実行委員会、逸見禰宜出席。清涼山宝樹寺、小出権禰宜訪問。宮司以下参籠。吉祥殿和婚フェス(一二日迄)。
- 二一日 紀元祭・橿原神宮遥拝式。すみよし歴史案内人の会研修会、小出権禰宜講師。
- 二二日 BS 神道章講習会、坂野庄司 山下権禰宜講師。
- 二三日 大海神社月次祭。
- 二四日 北陸放送番組「絶好調W」収録。
- 二五日 十五日祭。茶道稽古始、裏千家八木社中奉仕。御田講副講元 故山本巖氏、宮司・高階権禰宜弔問。
- 二六日 御田講副講元 故山本巖氏、神武権宮司・高階権禰宜会葬。
- 二七日 南海稻荷祭、宮司以下奉仕。自然総研文化講座、小出権禰宜講師。大谷中学校生徒一六名来社、岡禰宜案内。
- 二八日 十八日会(大神神社)宮司出席、高階権禰宜随行。
- 二九日 住吉武道館 武道祭、富澤権宮司出席。大阪府赤十字血液センター「神社 de 献血」活動協力、境内使用。
- 三〇日 海上交通安全祈願祭。北海道小樽市住吉神社宮司 星野昭雄氏・総代 椎野雅之氏以下参拝、来社奉賛。
- 三一日 出雲大神宮宮司 岩田昌憲氏来社。中央区南大江郷塾、小出権禰宜講師。

二二日

長崎県杵岐市聖母宮宮司 川久保匡勝氏・総代長 中原康壽氏以下一七名参拝。宮司以下参籠。ニコニコ動画「新 YNN NMB48 CHANNEL・GSK」収録。宮司以下参籠。

二三日

天長祭。

二四日

神社庁神宮大麻暦頒布終了奉告祭、川畑禰宜参列。皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師。

二五日

皇學館大学文学部国文学科教授 大島信生氏以下参拝。神社庁教化委員会研修会、川畑禰宜出席。皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師。

二六日

三重県四日市市天力須賀住吉神社宮司 分部憲一氏・総代会長 加藤正則氏以下一四名参拝。住吉祭渡御会議、住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏・神武権宮司以下出席。

二七日

責任役員会、太田重彦氏・山中諄氏・雪本泰永氏・島野容三氏代理・宮司以下出席。

二八日

浅沢社月次祭。定例清掃。職員会議。神社庁明階授与式、奥野権禰宜参列。大阪市文化財保護事業補助金、交付決定通知(大市教委第三三〇八一二号)。

三月

一日

朔日祭。りそな銀行住吉支店店舗百周年記念式典、同支店長 尾添守晃氏以下参拝。(学)清風学園清風高等学校卒業証書授与式、宮司参列、高階権禰宜随行。年末年始奉仕者会合、滝沢 星野権禰宜出席。立浪部屋(日本相撲協会)境内寄宿(四月九日迄)。

二日

神社スカウト協議会理事役員会、坂野権禰宜出席。皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師。

三日

壇使、富澤権宮司・宮寄権禰宜・浜崎社務員奉仕(奈良県橿原市雲名梯川保神社・吹火山口神社)。

四日

土俵祭 降神之儀、立浪部屋参列。BS一二三団会議、万力禰宜以下出席。皇學館大学階位検定講習会、小出権禰宜講師。

五日

侍者社例祭。

六日

大阪府婦人神職の会例会、東野囑託参加。近畿地区中堅神職研修、川畑禰宜・中野 河野権禰宜受講(一〇日迄)。西岩部屋(日本相撲協会)港住吉神社寄宿(三月二九日迄)。市立粉浜小学校四年生六九名社会見学、岡禰宜案内。

七日

八 日

神社庁例祭習礼 岡禰宜参加。梅園家旧蔵猿瓦、住吉高燈籠（住吉名勝保存会）寄託。

九 日

高野山真言宗総本山金剛峯寺第四一五世座主 長谷部真道 大僧正晋山祝賀会、宮司参列、星野權禰宜随行。住吉警察署協議会、岡禰宜出席。

一〇 日

卯之日祭。市戎大國社月次祭。神社庁例祭、岡禰宜祭員奉仕。御田講事務局会議、高階權禰宜以下出席。

一一 日

初辰祭。御祓講獅子会合、逸見禰宜以下出席。御神酒講 故中原禮治氏、神武權宮司・庄司權禰宜弔問。吉祥殿ブライダルフェア。

一二 日

大海神社月次祭。大槻能楽堂「至高の華一舞と語り」宮司観覧。御神酒講 故中原禮治氏、庄司權禰宜会葬。

一四 日

高野山真言宗総本山金剛峯寺、宮司訪問、座主 長谷部真道大僧正面談、逸見禰宜・太田權禰宜帯同。館友会支部役員会、逸見禰宜以下出席。

一五 日

十五日祭。徳島県美馬市市長 加美一成氏・美馬和傘製作集団 江本恵氏以下来社、美馬和傘奉納。毎日放送取材、河野權禰宜応対。

一六 日

本殿清掃。特殊神饌調製。献詠俳句選者会、古賀しづる氏・森田純一郎氏・小杉伸一路氏選考。堺市文化観光局局長 浦部喜行氏・文化部文化財課主幹 土井和幸氏以下来社、堺市指定無形民俗文化財「住吉大社宿院頓宮の祓神事（荒和大祓神事）」指定通知書交付式（令和四年一二月一六日付）。宮司以下参籠。

一七 日

神種頒賜祭、赤松種苗(株)神種奉納、御田講員参列。祈年祭（大祭）、責任役員 太田重彦氏以下総代・崇敬者・御田講副講元 濱田孝氏以下講員二五名・JA大阪市代表理事組合長 菱井由一氏参列。住吉税務署署長 小林修氏来社。神社庁合祀慰霊祭 岡禰宜祭典奉仕。

一八 日

住吉連合地域活動協議会地域教育部会議、小出權禰宜講師。

二〇 日

海上交通安全祈願祭。

二二 日

皇靈殿遥拝式。招魂社春季例祭。神馬塚 宮司・神武權宮司参拝、高階權禰宜帯同。千度講 東粉浜連合・安立連合・旧中在家東之町参拝。市教育委員会・大阪密教美術保存会主催「大阪の歴史再発見 非公開文化財の特別公開」協力、御神像公開（翌日迄）。

二三日

故永澤則次氏、宮司弔問、高階 中野權禰宜帯同。阿部野神社名誉宮司 故中塚昌宏氏、神武權宮司会葬、星野權禰宜随行。BS-TBS「美しい日本に出会う旅」境内収録、武田權禰宜説明。

二四 日

（学）皇學館評議員会、宮司出席。新規採用者研修（二一日迄）。元総代 故網干輝雄氏一周忌、宮司弔問、星野權禰宜随行。

二五 日

土俵祭 昇神の儀、立浪部屋参列。立浪部屋千秋楽祝会、宮司・神武權宮司出席。

二六 日

（学）浪速学院理事評議員会、神武權宮司出席。日本曆学会総会（寒川神社）中川權禰宜出席。ウェーブ産経ツアー催行、小出權禰宜案内。

二七 日

浅沢社月次祭。アサヒ飲料(株)「三ツ矢の日」参拝。

二八 日

大阪港湾福利厚生協会創立八十周年記念祝賀会、岡田囀託禰宜・名村權禰宜出席。

二九 日

大阪市立自然史博物館、岡禰宜訪問（催事打合）。乃木神社宮司 加藤司郎氏来社。

三〇 日

辞令伝達。定例清掃。職員会議。住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏宅、神武權宮司以下訪問 渡御打合。新型コロナウィルス感染症対策等特別勤務体制、本日付終了（自令和二年五月）。高井道弘宮司退任奉告祭。神武磐彦宮司就任奉告祭・加藤司郎權宮司就任奉告祭。

三一 日

朔日祭。本庁辞令・住吉大社權宮司 神武磐彦、住吉大社宮司に任ずる。乃木神社宮司 加藤司郎、住吉大社權宮司に任ずる。社内辞令・古館完汰、住吉大社神人に任ずる。兵庫県加西市北条住吉神社節句祭、岡禰宜祭員奉仕。毎日放送テレビ番組「よんたんTV」収録、河野權禰宜応対。新規変形労働時間勤務体制、実施開始。

二 日

宮司・權宮司、本日より各所へ就任挨拶を開始。愛媛県松山市立子規記念博物館、高井前宮司訪問（安江不空旧蔵正岡子規遺品寄託品持参）。

三 日

松苗神事・卯之日祭・住吉三葉松植樹奉告祭、神武天皇陵遥拝式、同奉植式。高野山真言宗総本山金剛峯寺座主 長谷部真道大僧正参列。松苗献木 岩根正尚氏、後援者岸の姫松講元 大賀信幸氏以下講員七名、献詠俳句選者 古賀しづる氏 小杉伸一路氏、入選者参列。天位「瑞鳥の宿る秀

四月

となれ苗木植う」小林恕水氏、地位「伸びらかに春風掬ひ巫女の舞」岸本美恵氏、人位「住吉さんあての水都緑立つ岸本美知子氏。協賛(株)末廣堂。大阪日日新聞・仏教タイムス取材。広島県廿日市市厳島神社、高井前宮司参拝。初辰祭。住吉消防署署長 馬場賢治氏来社。神社庁祭式講師会合、岡禰宜参加。伊名結海氏来社奉賛。

前宮司 高井道弘、神社本庁より住吉大社名誉宮司の称号を授けられる(本日付)。サンテレビジョン「ハート&ドリーム」境内撮影。

正印殿祭。

廣田神社・生田神社・長田神社・湊川神社・西宮神社・本住吉神社・宮司・権宮司参拝挨拶、高階権禰宜随行。

五社春季例祭。絵所預 水江東穹氏来社。

種貸社例祭。多賀大社・日吉大社・近江神宮・伏見稻荷大社・石清水八幡宮・水無瀬神宮、宮司・権宮司参拝挨拶、高階権禰宜随行。

港住吉神社 楠玉稻荷社例祭。市戎大国社月次祭。

檀原神宮・大神神社・春日大社、宮司・権宮司参拝挨拶、高階権禰宜随行。安全衛生教育講習会、古館神人受講。

乃木神社、宮司挨拶、高階権禰宜随行。住吉公園事業会議、小出権禰宜出席。

大海神社月次祭。神社本庁宮司任命交付式、宮司出席・代表挨拶、随行高階権禰宜。宮中参内、就任奉告御記帳。

帰社後、第一本宮参拝、職員に対して報告挨拶。神社庁辞令交付式、小山手権禰宜出席。りそな銀行住吉支店長尾添守晃氏来社挨拶。

鉾社例祭。NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」開会式・特別見学会(三井記念美術館)小出権禰宜参加。住吉踊保存後援会会議、逸見禰宜以下出席。御田レンゲあそび、墨江幼稚園二三名・住吉幼稚園四五名参加。

十五日祭。おいとしばし社春季例祭。奈良県橿原市雲名梯神社総代会一五名参拝。神稜講二一名定例参拝。大阪国学院入学奉告祭、岡禰宜祭員奉仕。大阪市指定文化財「特別公開 女神邂逅―市域伝来の神仏習合の女神像(山本能楽堂)小出権禰宜参加。

宿院頓宮校祭。大鳥大社・阿部野神社、宮司参拝挨拶、星野権禰宜随行。「レンゲdeすみ博」御田開放。田植踊保存会会長 故西山久枝氏、宮司・万力禰宜弔問。

一六日

一四日

一五日

一六日

一六日

一七日 四天王寺・坐摩神社・生國魂神社・大阪府神社庁、宮司・権宮司参拝挨拶。田植踊保存会会長 故西山久枝氏、岡禰宜会葬。

一八日 宮司社務引継式、大阪府神社庁長 藤江正謹氏・責任役員 山中諄氏立会、高井名誉宮司・神武宮司以下出席。御田レンゲあそび、こぐま保育園三二名参加。釣りビジョンレギュラースタジオ番組「釣りうえしぶ」境内撮影。

一九日 山梨県甲府市甲斐国住吉神社宮司 秋山忠也氏・総代会三〇名参拝。堺市博物館学芸員 宇野千代子氏・石畑いづみ氏来社、資料調査実施。

二〇日 海上交通安全祈願祭。島津忠久公誕生記念祭、鹿児島大坂事務所次長 岡元隆太郎氏以下参列。新職員境外末社参拝。明治神宮、宮司参拝挨拶、高階権禰宜随行。全文連研修会、倉智権禰宜参加。

二一日 靖國神社春季例大祭、宮司参列、高階権禰宜随行。四天王寺聖霊会舞臺大法要、東野囀託奉奏。

二二日 枚岡神社・四條畷神社、宮司・権宮司参拝挨拶、高階・星野権禰宜随行。港住吉神社氏子総代会・夏祭実行委員会総会、宮司・権宮司以下出席。吉祥殿フライダルフェア。

二三日 賀茂別雷神神社・賀茂御祖神社・北野天満宮・平安神宮・八坂神社、表千家不審菴・裏千家今日庵・久田家半床庵、宮司・権宮司各参拝挨拶、高階・星野権禰宜随行。住吉公園事業会議、小出権禰宜出席。

二四日 御田植物調査、大阪市立自然史博物館学芸員 長谷川匡弘氏来社、岡禰宜参加。

二五日 (株)ダイソー稲荷祭、宮司以下奉仕。高野山密厳院 徳富義明氏参拝。

二六日 (株)ダイソー稲荷社正遷座祭、宮司以下奉仕。南都銀行堺支店NANTO堺交流会、小出権禰宜講師。

二七日 職員定期健康診断。すみよし反橋能実行委員会、小出権禰宜出席。宮司以下参籠。

二八日 昭和祭。御田植神事打合会、宮司以下出席。

二九日 浅沢社月次祭。定例清掃。(学)浪速学院浪速高等学校浪速中学校開校百周年記念奉祝祭記念式典、宮司参列。

三〇日

三〇日

三〇日

三〇日

三〇日

三〇日

令和五年

短歌

新年献詠祭

(一月十五日)

後援…産経新聞社 協賛…末廣堂
選者…安田 純生、佐沢 邦子、香川 ヒサ

天位

ぼち袋は多目に用意して行けとまた妻の言う年始回りに

埼玉県所沢市

若山 巖

(評) コロナ禍ではあるが、ぼつぼつ年始回りも始めようかとの社会への意識が感じられる。

地位

去年より三倍大きな鏡餅家族増えたるふるさとの家

兵庫県神戸市

米谷 茂

(評) ふるさとの家の家族が増えたことを喜ばれる作者の気持がストレートに響きます。

八位

椎茸の駒打つ山で友となる尉鷄今日も廻りを飛べる

大分県竹田市

佐藤 政俊

(評) 作者の優しいお人柄も温々と伝わってくるように感じて、此の山に行ってみたくなる。

佳作

潮騒の音も入りくるスマホから初日見たよの孫の声聴く

神奈川県 北村 純一

新米に添付の写真は友の田に出没したる手負いの猪

大阪府 梶田 有紀子

年賀状めぐるうれしさ梅の花デイで習いし母の絵手紙

大阪府 新居 とも

冬枯れの庭にはんわか陽を浴びて丸まりてゐる見慣れぬ猫が

大阪府 高松 好江

とんど焼小さき両手に煙包み病の祖父へ持ち帰りけり

神奈川県 須山 恵美

住吉さんうさぎ手水に身を淨め九十三才生けるよろこび

大阪府 田中 文之祐

介護士の不規則勤務に帰り来ぬ娘の卓に雑煮をよそう

兵庫県 大石 佳子

雪を掻き雪を下ろして松を飾り生家に一人新年迎ふ

北海道 藤林 正則

戦なき瑞穂の国の空青く黄いろの稲の回りをあゆむ

大阪府 城 富貴美

久し振りときのも今日もはれやかに挨拶をする姉は九十

大阪府 山下 道子



(総評) 御家族を先ず思い、日本にも思いを致し、世界にも思いを馳せる良い作品が多かった。良い年になります様に。

(佐沢 邦子)

献詠俳句

松苗神事

(四月三日)

協賛…末廣堂
選者…古賀しぐれ、森田純一郎、
小杉伸一路

天位

瑞鳥の宿る秀となれ苗木植う

兵庫県川辺郡猪名川町

小林 恕水

(評) 鳳凰などのめでたい鳥のすみかとなる秀となることを祈って苗木を植えるという
神事にふさわしい一句である。

地位

伸びらかに春風掬ひ巫女の舞

兵庫県神戸市

岸本 美恵

(評) 巫女さんの舞う様子を見てゆったりと春風を掬うようだと作者は感じたのだろう。

人位

住吉さんありての水都緑立つ

大阪府大阪市

岸本 美知子

(評) 古代には住吉大社の辺りまで海が入りこんでいた。水都大阪の象徴の若緑を詠んでいる。

佳作

松苗に不戦を祈り鋏下す

大阪府

西村 操

とびきりの笑顔の植うる苗木かな

兵庫県

末永 拓男

松籟は神の言の葉苗木植う

大阪府

中野 美栄子

わたつみの社の松の緑かな

東京都

徳植 弘幸

松苗を植う一鋏に土躍り

大阪府

小畑 晴子

天地をつらぬく光苗木植う

大阪府

和田 マサミ

匂やかや植ゑし苗木も巫女舞も

兵庫県

柏木 由美子

未来図を夢見て松の苗木植う

大阪府

室田 妙子

育ちゆく日々の喜び苗木植う

兵庫県

明石 裕子

松籟や東風に乗り来る遠汽笛

兵庫県

山谷 彰子

(総評)

今年の皆様の句を拝見して、明るい俳句になって来たと感じています。新型コロナウイルス感染禍によって外出のままならない三年間が過ぎて、やっと色々な活動を再開することが出来るようになったので、季節の喜びをどんどん句に詠んでいただきたいと思います。(森田 純一郎)



住吉大社では献詠作品の短歌と俳句を募集しております

【要領】 献詠の作品は、お1人様ごとに短歌2首、俳句2句まで詠進可

詠題は自由ですが、必ず自作によるもので、未発表の作品に限ります

【書式】 作品は楷書(ふりがな)で、郵便番号・住所・電話番号・氏名(ふりがな)を
明記の上、下記の住吉大社「献詠係」宛にご郵送ください

【宛先】 〒558-0045 大阪市住吉区住吉2丁目9番89号 住吉大社献詠係

【締切】 新年献詠祭(短歌)11月末日 松苗神事(俳句)2月末日

観月祭(短歌・俳句)7月末日 ※消印有効

【選考】 住吉大社委嘱の選者により入選作品を厳正に選考いたします

【表彰】 入選作品 天・地・人位(各1名)、佳作(10名) 計13名

選考後に通知、祭典に招待の上、当日に神前奉納の後に賞状を各贈呈

【注意】 判読不能の作品や、神前にふさわしくない内容、詠進要領によらない投稿は
選考の対象から除外することがあります

住吉大社献詠係

この国の文化を紡ぐ婚礼の儀

住吉結び



ふたりの一生に寄り添い、
幸せを見守り続ける神社。
ここに響く、和の結婚式

人々の「ご縁」を紡いできた歴史ある神社「住吉大社」が、ふたりをはじめ両家を結ぶ。

結婚式を機に安産祈願、お宮参りや七五三、長寿のお祝いなど、ふたりや家族の人生に寄り添い、節目のたびに訪れる場所となる。

誓いの場となる本殿までは、緑豊かな境内を家族や親族「ゲスト」と「花嫁行列」で共に歩み、感謝の想いを胸に一步一歩ゆつくりと進む。

厳肅な時間の中にも、大切な人たちとの今までとこれからを思う、そんな時間があってもよいのではないだろうか。

人生儀礼のひとつである「結婚式」。

厳肅な儀式のあとは祝宴で感謝の気持ちを伝える。

住吉大社では、そんなおふたりに寄り添い、見守り続けます。

住吉大社吉祥殿とは

平成3年、ご鎮座1780年の記念事業として「住吉大社記念館」竣工。

平成16年9月一階披露宴会場の会場増築&全館リニューアルオープン。

「住吉大社吉祥殿」に改称。結婚式、披露宴をはじめ会合、食事会などの会場としてご利用いただいております。



🌸 ロケーションフォト



3万坪の境内では、一年を通して豊かな緑が広がる。
春には桜、秋には紅葉など季節の移ろいも格式ある誓いの舞台を華やかに彩る。

🌸 おもてなし



少人数から本格披露宴まで多彩な会場をもつ住吉大社吉祥殿。
披露宴で好評の贅を尽くした婚礼メニューは、月に一度のプレミアムフェアで試食可能。

試食会やブライダル相談会の詳細はホームページをご覧ください。

<https://sumiyoshitaisha.jp/>

住吉大社吉祥殿 婚礼予約課 **06-6675-3591**



住吉大社吉祥殿のインスタグラム公式アカウントでは、
挙式されたリアルな新郎新婦のお姿、最新のヘアスタイル、
会場コーディネートなどを投稿しております。

 **住吉大社吉祥殿**



新しい家族が増え住吉さんにご報告

名称の由来は、住吉大社の神主家の出身、遣唐
神主「津守連吉祥（つもりむらじきしょう）」
の顕彰を目的として当時の宮司、真弓常忠が命
名した。

—おしらせ— 新刊図書

住吉大社叢書第一巻

すみよっさんの 境内と石燈籠

企画・住吉大社叢書刊行会
編集・住吉大社 発行所・清文堂出版



本書の構成

序文 高井道弘

第一部 住吉大社の祭神と歴史

神話と住吉の神／遣唐使と住吉大社／和歌の神としての住吉大社／王朝文学と住吉大社／熊野街道と住吉大社／住吉大社の祭礼／御伽草子と住吉の神／江戸時代の住吉大社／コラム 住吉松葉大記／明治維新と住吉大社／北前船がむすぶ上方と北海道―北海道江差に伝わる住吉神主の筆跡―

第二部 「すみよっさん」の境内を巡る

境内正面／境内北側／境内東側／境内南側／境内周辺の名所と境内末社／コラム 住吉土人形（住吉人形）

第三部 石燈籠探訪

最も巨大な石燈籠・最も高い石燈籠／コラム 石燈籠／油関係の石燈籠／越中締綿荷主廻船中の石燈籠／さんけい道の石燈籠／紅花業者の石燈籠／誕生石の石燈籠／飫物商石燈籠／卯之日燈籠／最古の石燈籠／城主奉納の石燈籠／蠟石の和砂糖問屋石燈籠／再建された侍者社石燈籠／有田焼磁器燈籠の名品／「大阪」最古の年紀銘／飛脚問屋の石燈籠／鷺燈籠／住友燈籠／芭蕉句碑の石燈籠／堺たばこ庖丁鍛冶の石燈籠／大坂上荷茶船中の石燈籠

住吉大社の指定文化財

住吉大社叢書発刊にあたって

編集後記

（境内案内図とアクセス）

本体一、二〇〇円＋税（10%税込み一、三二〇円）
ISBN 978-4-17-924-115-011-3

令和五年（二〇二三）

住吉祭と下半期の祭事暦

住吉祭	
7月7日（金）	星宮例祭 ほしのみやれいさい
7月17日（月）	汐汲行事 しほみぎぎぎ
7月21日（金）	神輿洗神事 かみうりせんじんじ
7月30日（日）	斯主社例祭 このぬしやれいさい
8月1日（火）	宵宮祭・遷霊祭 よみやまつり
8月7日（月）	例大祭（大祭） れいださい
8月9日（水）	夏越祓神事 なごしのはらしんじ
8月13日（土）	朔日祭 しつじつまつり
8月15日（日）	渡御発興祭 わごけはつこうさい
8月17日（火）	頓宮祭 とんぐうまつり
8月19日（水）	飯匙堀祓神事 いかりほりはらしんじ
8月21日（金）	還興祭 かえりこうさい
8月23日（日）	人形流神事 ひとがたながしんじ
8月25日（火）	薄墨社例祭 うすすみやれいさい
8月27日（水）	桶社例祭 かづきやれいさい
8月29日（金）	志賀神社例祭 しがひやれいさい
8月31日（日）	児安社例祭 こやすやれいさい
9月2日（月）	皇靈殿遷拜式 こうりやうでんせんぱいしき
9月4日（水）	招魂社秋季例祭 しょうこんじしゅうきれいさい
9月6日（金）	観月祭 かんげつさい
9月8日（日）	大歳社例祭 おほとしやれいさい
9月10日（火）	大海神社例祭 おほのうみやれいさい
9月12日（水）	おいとしぼし社秋季例祭 おいとしぼししゅうきれいさい
9月14日（金）	龍社例祭 りゅうやれいさい
9月16日（日）	御田刈式・神宮神嘗祭遷拜式 みけりしきしんぐうじんぐうせんぱいしき
9月18日（火）	宝之市神事 たからいちしんじ
9月20日（水）	后土社例祭 ごとしやれいさい
9月22日（金）	船玉神社例祭 ふねたまじんじれいさい
9月24日（日）	近畿高等学校招待相撲大会 きんかいこうがうがくしやうたいすちたいかい
9月26日（火）	大阪府中学校招待相撲大会 おおさかちゅうがくしやうたいすちたいかい
9月28日（水）	明治祭（中祭） めいしやうまつり
9月30日（金）	五社秋季例祭 ごしやうしゅうきれいさい
10月2日（日）	七五三祝祭 しちごさんいわいさい
10月4日（火）	新嘗祭（大祭） しんじやうまつり
10月6日（水）	煤払式 すすはらいしき
10月8日（金）	大祓式 おほはらいしき
10月10日（日）	除夜祭 じよやさい

※朔日・卯之日・海上交通安全祈願祭など恒例祭に準じるものは省略
※祭礼の時間や神賑行事・奉納行事は変更する場合があります



元祖さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であつたさつま芋を
形どつたなにわの味、
昔からの銘菓であります。

十勝小豆を精製した
淡泊な味のこしあんを、

秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して

焼き上げております。

幾星霜の老舗の味をご賞味ください。

摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処

御菓子司

株式会社

東廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四
TEL 〇六（六六七）四四二八
〇六（六六七）八八一三〇
FAX 〇六（六六七）三〇一九
毎週火曜定休日

第40号の表紙 住吉大社の鼈太鼓（ただいこ）

卯之葉神事の奉納舞楽で用いる大型の楽太鼓。豊臣秀頼公奉納と伝承される鼈太鼓は左右一対あり、左方は日輪・龍・三つ巴、右方は月輪・鳳凰・二つ巴があらわれ、取り巻く火焰の彫刻などで装飾された優美な太鼓です（写真は右方太鼓）。

日本の伝統
花嫁の正統。

 住吉大社吉祥殿

Tel 06-6675-3591 fax 06-6675-3311

URL <http://www.sumiyoshitaisha.jp>

〒558-0045 大阪市住吉区住吉 2-9-89
(水曜定休日)

令和5年(2023) 7月1日発行(年2回発行)

発行人 神武磐彦 発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

Tel

06・6672・0753

印刷 真生印刷株式会社